

委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第5回定例会において、次のとおり報告しました。

総務文教常任委員会 調査報告

ふるさと寄付金の 取り組みについて

「清水町いきいきふるさとづくり寄附」の取組状況について、担当課から説明を受けた後、平成25年度において寄付金が急激に増加した上土幌町で視察研修を行い、町長等から説明を受けた。

本町の取り組みについては、①第九のまち

目的にしている。上土幌町は感謝特典をPRし、都市と農村の交流の一環として特産品の贈呈を通じ、経済活性化を図ることを目的としている。使途指定のない寄付金の活用は、国家的な課題である子育て少子化対策として基金に積み立て、先進的な事業に充てることになっている。

本町においても、本年度から特典として特産品の贈呈を予定して



寄付金が急増した上土幌町を訪問

いるが、上土幌町の取り組みを本町に当てはめることは難しいため、寄附者とのつながりを大切に、特産物の魅力を発信して本町経済の

活性化に寄与できるように、明確な目標を立てて取り組む必要がある。どのような方策で広報していくかが重要、各課が連携して取り組む必要がある、民間組織などの力を借りて幅を広げていくことが大切などの意見があり、清水町の魅力を積極的にアピールし、都市と農村の交流に向けた、計画的・戦略的なまちづくりが図られるよう期待するものである。

産業厚生常任委員会 調査報告

入所型老人介護施設について

特別養護老人ホームへ赴き、施設長から施設についての説明を受けた。

施設内は木材や木目の材料がふんだんに使われ、各ユニットには、入所者同士が気軽に談話できるソファを配置し、入所者が一同に会して食事をす

ことができるテーブルが置かれるなど、共有部分やスペースが充実しており、入所者同士が交流できることを重視している設計となっている。

また、施設内の臭気対策とインフルエンザなどの感染症対策としてオゾンを利用した空

気清浄がなされている。今年建設された施設「広域型せせらぎ荘」は「地域密着型せせらぎ荘」と施設が併設されており、施設全体で看護師9名を含む総勢約100名のスタッフにより、一体的な管理運営が行われている。

保健福祉課からの説明によると、平成26年5月19日現在の施設入居待機者数は、広域型で132名となっており、清水町内では75名(地



新しく建設されたせせらぎ荘を訪問

域密着型と重複)、広域型のみでは20名で合計95名、町外からの入所希望者は37名いる。介護度での待機者数の分布については要介護1から2の方が広域型で53名、地域密着型で25名となっている。要介護度が特に高い3から5までの方は広域型で79名、地域密着型で50名となっている。

今後更に、待機者が増えることが予想され、待機中に要介護度が増す可能性もあることから、待機者への早急な手立てや、在宅介護を更に充実させる環境の整備等が必要と調査の中で感じられた。